



イーハトーブ

5月10日号

5月3日は憲法記念日。今年も東京の有明防災公園で憲法大集会が行われ、日本国憲法を堅持しようとして5万人もの人々が集まった。今までは、組織や団体として参加する人が多かったが、最近では10代〜30代の若者や女性同士でグループを作り、集会に参加する人も増えた。

今年の2月に行われた衆院選では、初の女性総理大臣ということでも「サナエ推し」とも言われ、「推し活」した選挙で自民党が圧勝した。現在では、選挙結果を元に憲法を改憲しようという躍起になっている。

2015年に安保関連法が強行採決された。昨今の国際情勢では、アメリカとイスラエルがイラクを攻撃し、多くの人々が戦禍に巻き込まれている。それをニュースで報道し、日本国民の不安を煽り、軍事力を増強すべきだと扇動している。

今の世界情勢で不安を抱いた人、高市政権のもとで憲法改正が進むと危惧する人が増え、「戦争反対!」「憲法守れ!」と声をあげる人々が「デモ」に集まっている。日本各地の駅前や国会前で頻繁に行われる最近の「デモ」では、「推し活」でコンサートや音楽ライブで使うペンライトや、自作のうちわやプラカードを手に持ち、多くの民衆が叫ぶようになった。四国の徳島では阿波おどりをしながらデモを行ったと話題にもなった。

好きなアニメやアイドル、スポーツなど、いわゆる「推し活」ができるのは平和な世の中があつてこそだ。本当の「推し活」ができる、平和な社会を望むのは、世界各国市民みな同じだ。一方、戦争を望むのは、戦争することによって利益を得る資本家や権力者の奴らだ。それぞれの好きなこと、「推し活」ができる平和な社会を守り抜くために、私たち民衆は声を上げ続けなければならない。

(T・T)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行います。